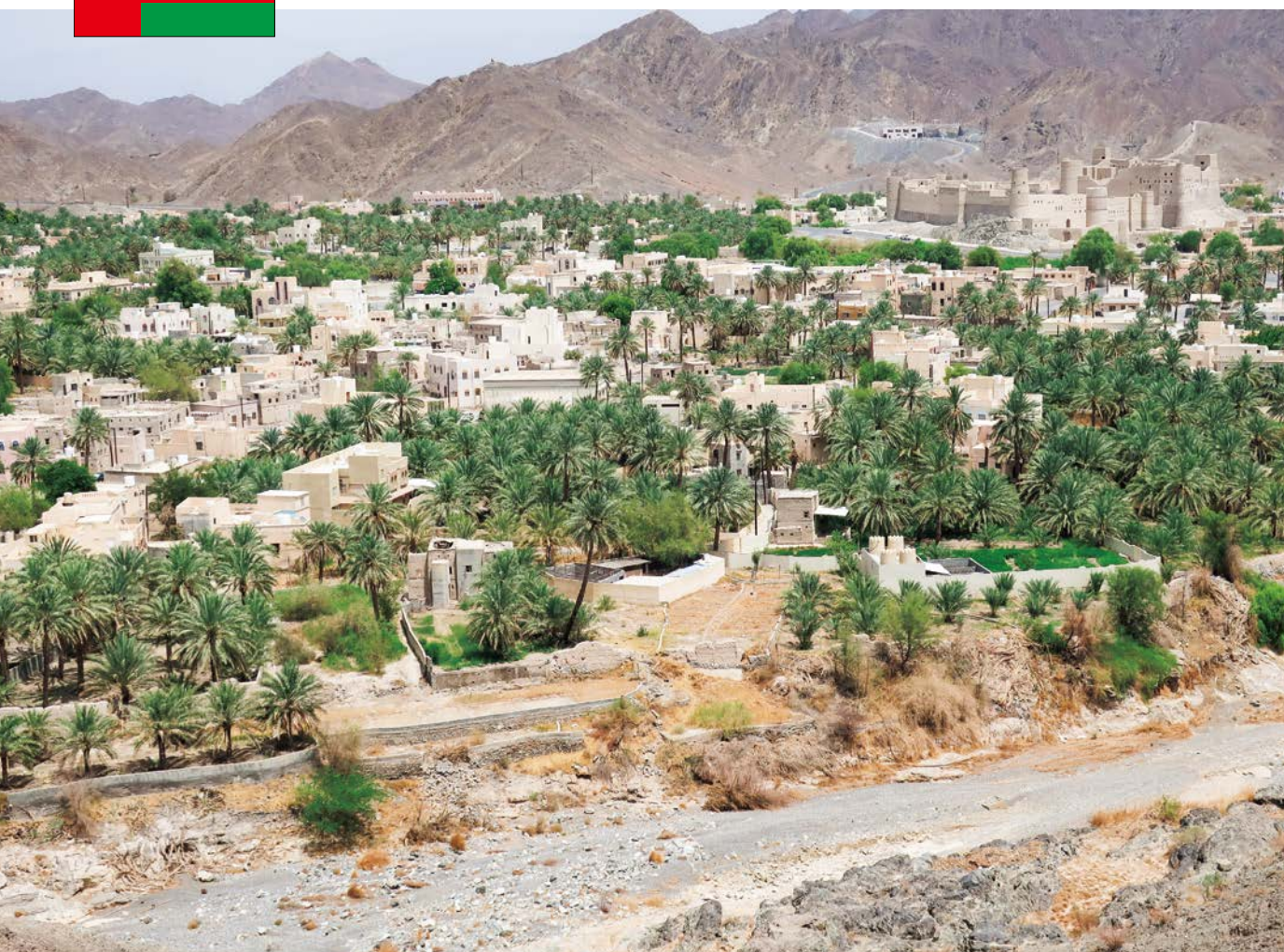


中学校 社会科のしおり

2019年度 **1** 学期号



オマーン オアシスの村のようす (取材レポートは裏表紙)



新連載

やってみよう! **歴史でAL**

注目記事

地理学習トラの巻⑱ **指導計画の立て方**

教授用資料

帝国書院

オマーンの写真は、
「指導者専用サイト」
プレミアム写真館
でご覧いただけます!

乾燥した地域を取材して 帝国書院取材班



オアシスの村の暮らし

表紙写真はオマーンの首都マスカットから160kmほど南西に位置するオアシスの村、バフラの旧市街地である。かつてオマーンの首都であった内陸の街ニズワーに向かう途中で撮影したものだ。手前の砂礫が広がる場所は降雨時に水が流れるかれ川で、ワジとよばれる。日干しれんがづくりの家々の屋上にはファラジとよばれる灌漑用水路から配水される水を貯めるタンクや衛星放送受信のアンテナが設置されている。右手の奥に見える大きな城塞は世界文化遺産に登録されているバフラ城塞である。

オマーンの秘境として観光客に人気があるアル・メスファ村も訪れた。この村ではオマーンの伝統的な生活のようすを見ることができる。オマーン北部にある標高2000m級の山が連なるハジャル山地の麓の水源からファラジで運ばれてきた貴重な水は、飲用水として大切に使われている。木陰に設けられた水場は村の子どもたちの憩いの場になっているが(写真①)、水場の水はその後、洗濯や作物の栽培などに有効に使われている。

生命の木の果実 デーツ

オアシスのデーツ(なつめやしの実)農園ではインドやパキスタン出身の外国人労働者が、高さ10m以上の樹上にあるデーツを収穫していた(写真②)。日本のお好み焼きソースの原材料にも使われているデーツは栄養価が高く、ドライフルーツにして長期保存もできるため、中東の人々には欠かせない果物である。

人々が集まるスーク

首都マスカットではスーク(市場)とモスクを訪れた。迷路のような細く入り組んだ路地に衣料品やアクセサリなどを売る店がひしめく伝統的なスークのほか、地元の人々向けに鮮魚や生鮮食料品などを扱うマーケットもある。そこではクンマとよばれる刺繍入りの帽子と伝統衣装を身にまとった客が店主とのんびりとデーツの値段交渉をする姿が見られた(写真③)。

大理石づくりの絢爛豪華なモスク

スルタン・カブス・グランド・モスクはオマーン最大のモスクである(写真④)。このモスクはイスラム教徒でなくても内部を見学することができる。館内にはガイドがいて、お茶やコーヒーとデーツのおもてなしを受けながらイスラム文化についてのレクチャーを無料で受けることもできる。ただし、入館する際には長袖、長ズボンなど肌が見えない服装が必要で、とくに女性は髪の毛を隠すためにスカーフを着用することが義務づけられている。(写真：帝国書院 2018年9月撮影)

